

平成29年西東京市教育委員会第4回定例会会議録

- 1 日 時 平成29年5月23日(火)
開会 午後2時02分 閉会 午後2時41分
- 2 場 所 防災センター6階 講座室2
- 3 付議事件 別紙議事日程のとおり
- 4 出席委員 教 育 長 職 務 代 理 者 宮 田 清 藏
委 員 森 本 寛 子
委 員 高 橋 ますみ
委 員 米 森 修 一
委 員 木 村 俊 二
- 5 出席職員 教 育 部 長 渡 部 昭 司
教 育 部 特 命 担 当 部 長 南 里 由美子
教 育 企 画 課 長 早 川 礼 成
教 育 部 副 参 与 兼 学 校 運 営 課 長 等々力 優
教 育 指 導 課 長 内 田 辰 彦
教 育 部 主 幹 兼 統 括 指 導 主 事 福 田 忠 春
統 括 指 導 主 事 宮 本 尚 登
指 導 主 事 鈴 木 壮 平
教 育 支 援 課 長 清 水 達 美
社 会 教 育 課 長 岡 本 範 子
公 民 館 長 大 橋 一 浩
図 書 館 長 中 川 恭 一
- 6 事務局 教 育 企 画 課 長 補 佐 兼 学 務 係 長 大 谷 健
教 育 企 画 課 企 画 調 整 係 長 和 田 克 弘
- 7 傍聴人 1人

平成29年西東京市教育委員会第4回定例会議事日程

日 時 平成29年5月23日（火） 午後2時から

場 所 防災センター6階 講座室2

第 1 会議録署名委員の指名

第 2 報 告 事 項 (1) 平成 28 年度西東京市公立小・中学校児童・生徒の進学
状況

(2) 平成 28 年度適応指導教室「スキップ教室」入室児童・
生徒の状況について（報告）

(3) 西東京市子ども読書活動推進計画策定記念「子どもの本
まつり」記録集について

第 3 そ の 他

西東京市教育委員会会議録

平成29年第4回定例会
(5月23日)

午後 2 時 02 分 開 会

議事の経過

○宮田教育長職務代理者 ただいまから平成29年西東京市教育委員会第4回定例会を開会いたします。

これより直ちに本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名委員の指名を行います。本日は高橋委員にお願いしたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○宮田教育長職務代理者 それでは、本日は高橋委員にお願いいたします。

○宮田教育長職務代理者 日程第2 報告事項に入ります。

質疑は後ほど一括して行いますので、説明からお願いいたします。

まず、(1)平成28年度西東京市公立小・中学校児童・生徒の進学状況、説明をお願いいたします。

○福田教育部主幹兼統括指導主事 では、私から、平成28年度西東京市公立小・中学校児童・生徒の進学状況について、報告いたします。

恐れ入りますが、資料の上段を御覧ください。

平成28年度において、小学校を卒業した児童は1,542名でございました。市内公立中学校のうち、校区内の中学校に進学した児童が1,205人、校区外の中学校に進学した児童が53名でございました。市外の都内公立中学校に進学した児童は20名、都立中学校または都立中等教育学校へ進学した児童は30名、都内国立中学校は6名、都内私立中学校が205名、都外の中学校へ進学した児童は21名、その他が2名となっております。その他の内訳につきましては、インターナショナルスクールへ進学した児童が1名、海外転出が1名でございました。

続きまして、平成28年度西東京市公立中学校生徒の進学状況について、報告いたします。

資料の下段を御覧ください。

まず、中学校を卒業した生徒は1,352名でございますが、そのうち都立高等学校へ進学した生徒は818名、都内私立高等学校は452名、国立高等学校は1名、都外の高校へ進学した生徒は70名、専修学校・家事手伝い等は5名、就職は0名、その他が6名となっております。その他の内訳は、高等学校卒業程度認定試験受験希望が1名、病気による自宅療養1名、海外転出1名、海外留学1名、進学希望が2名となっております。

私からは以上でございます。

○宮田教育長職務代理者 ありがとうございます。

次に、(2)にまいります。

平成28年度適応指導教室「スキップ教室」入室児童・生徒の状況について(報告)、説明をお願いいたします。

○清水教育支援課長 それでは、平成28年度適応指導教室「スキップ教室」の入室児童・生徒の状況について、報告いたします。

スキップ教室は学校への復帰を目的とするとともに、安心できる居場所として、毎年度指

導計画をつくり、児童・生徒の社会的な自立を支援するため指導を進めております。

資料を御覧ください。

(1) 入室児童・生徒の状況になります。

入室者数につきましては、小学校5年生が1名、小学校6年生が1名、中学生は1年生が7名、2年生が26名、3年生が27名、合計で62名でございます。その右側、在籍校への復帰者につきましては、年度途中では中学2年生で1名、進級・進学時での復帰者は合計で35名となっております。次年度継続者、こちらは、今年度、29年度ということになりますけれども、継続者は25名となっております。中学3年生のその他の欄の1名につきましては、自宅療養中となっております。

次に、下段の(2)入室生徒の中学卒業後の進路でございます。

中学3年生27名の進路でございますが、26名が都立、私立の高等学校等に進学しております。1名は、先ほど(1)で報告申し上げましたが、自宅療養中となっております。

資料の報告は以上ですが、高校進学後の状況について、口頭で報告させていただきます。

今年度進学しました26名につきましては、全員通学または通信での授業に参加しているというふうに聞いております。4月に新学期が始まって以降、田無、保谷の各スキップ教室に直接報告に来る生徒や、電話でも報告があるというふうに指導員から報告を受けているところです。

また、昨年度、平成27年度の卒業生につきましては、進学しました23名も継続して通学あるいは通信教育を継続しているということになっております。卒業生につきましては、スキップ教室の指導員、また教育相談センターともつながりを持っていますので、今後も関わりを持ちながら見守りたいと考えております。

以上でございます。

○宮田教育長職務代理者 ありがとうございます。

それでは、(3)西東京市子ども読書活動推進計画策定記念「子どもの本まつり」記録集について、説明をお願いいたします。

○中川図書館長 図書館からです。

西東京市子ども読書活動推進計画策定記念「子どもの本まつり」記録集について、報告申し上げます。

恐れ入りますが、お手元の冊子を御覧ください。

この冊子は、平成28年3月の第3期西東京市子ども読書活動推進計画の策定を記念しまして、本年1月28日に開催しました西東京市教育委員会主催の「子どもの本まつり」の記録集でございます。当日は、こもれびホールの小ホールを会場としまして、翻訳家の福本友美子氏の「翻訳絵本の魅力を語る」講演会記録、わらべうたや手遊びを交えたお話会、工作教室、読書会やパネル展示などの記録を編集したものでございます。印刷は200部で、教育委員会、小・中学校、多摩六都及び四市行政連絡協議会の図書館、都立図書館などに配布いたしました。

簡単ですが、以上で報告とさせていただきます。

○宮田教育長職務代理者 ありがとうございます。

説明が終わりました。質疑を受けます。

- 木村委員 公立中学校生徒の進学状況の中で、人数は多くはなくて、これは大変いいことだと思うんですが、残念ながら、進学希望のまま今進学できないでいる生徒が2名ここにいらっしゃるということですが、この辺については何か把握されていることがあるのかないのか。大変難しいと思いますけれども、もし何かわかりましたら教えていただきたいと思います。
- 福田教育部主幹兼統括指導主事 こちらの数値ですけれども、5月1日時点の状況を学校に確認したものです。進学希望の者がまだいるということでございますので、その学校につきましては、進路指導主任の先生、元担任の先生等が中心となりまして、この子の希望をかなえるように、状況提供を含め、支援をしっかりと進めているところでございます。
- 木村委員 ありがとうございます。是非よろしく願いいたします。

- 宮田教育長職務代理者 ほかにいかがでしょうか。

私、「子どもの本まつり」記録集、大変結構で、実際読み聞かせ等をやっているのはいいんですが、これ、参加者を見ますと、小学校6年生1名、5年生3名の4名ですね。それから、中学生の部も中学2年生6名。これだけのエネルギーをかけてやって、ちょっと人数が極めて少ないんですが、その理由というのがありますか。もう少し工夫する点が必要なのではないかと直感的に思うんですが、いかがでしょうか。

- 中川図書館長 委員のおっしゃるとおり、PR不足というのは確かに否めないんですが、周知はホームページ、図書館館内の掲示、それから、実行委員の皆さんを通しまして声かけをさせていただいていますが、思うようなPR活動ができませんということは反省点としてございます。ただ、参加した子どもたちからは、実際に自分は体験したということで、体験した喜びを語る声が多くございました。PRにつきましては、今後とも検討課題としてまいりたいと思います。

- 宮田教育長職務代理者 体験した子がよかったからやるということもあるんですけども、やっぱり費用対効果というのも考えて、もう少し本の――要するに、読書をするというのは、私は極めて大事だと思うんです。今後、大学入試も記述式とかになりますから、そのためにはまず読んで、意味を理解するというところから始まって、自分の考えを将来的には文字にして人に伝えられるようにするということが大事なので、こういう計画というか、実施することは大変よろしいと思うんですが、もうちょっと校長先生とか、これだけ数が少ないと自己満足的にやっているのではないかみたいなイメージがわいてしまう。

今の進学指導のほうを御覧になっていただきますと、市内には小学6年生だけでも1,500名、中学3年生1,300名で2,800名、ともかく小学生、中学生トータルで1万4,000人ぐらいいるんですよ。その中では歩留りが悪過ぎるので、抜本的には是非お考えいただいて、今まで習慣的にやってきたからこれでやって、参加者よりもはるかに多い部数をつくってこういう立派なものをつくりましたというのはいいいんですが、だから、こういうのはいいいことだから、単純に学校にあげるというか、でも、参加が少ないということはよく読まれていないんじゃないかと思うんですね。校長先生その他が読んで、これだけ物がいいんだとなればエンカレッジして、「どうぞ、行け」というふうに言ってもらえると思うんですけども、それもはっきり言えないから集まらないんだろうと思うんですよ。それで、参加者はもちろんよか

ったと言っても、そういういいものは宝の持ち腐れになってしまうわけですから、是非抜本的に考えていただきたい。そして、計画を教えてください。私たちも協力させていただきます。せっかくいいことをやっているわけですから、こういう計画だって、こんなふうにPRしたいんだということを事前に教えていただいて、そうしてもう一回、御協力できることもあるかもしれないので、それは是非お願いします。

何か御意見ございますか。

○中川図書館長 おっしゃるとおり、皆様に御通知申し上げるとともに、図書室の先生ですとか、あるいは校長会、副校長会を通しましてPRを進めてまいりたいと思います。

○宮田教育長職務代理者 ほかに質疑はございませんか。

○米森委員 中学卒業後の進路の中で、定時制と私立の通信制という区分けがありまして、これは学校も都立の中で何校とか、場所とかは限られたりしていると思います。どれぐらい置かれているのか、そういう今の状況を教えていただければと思います。

○清水教育支援課長 私から説明申し上げます。

中学卒業後の進路ということで、スキップ教室に通っている方がいらっしゃいますけれども、定時制の総合学科というところでチャレンジスクールもありますし、あと、その中には都立の5つの学校がチャレンジスクールを設置しておりますので、そちらに行っている方が多いというふうに伺っています。私立は幾つか学校がありますので、通信制という形で行っているところがありますけれども。

○宮田教育長職務代理者 よろしいでしょうか。

○米森委員 あと、私立の通信制というのも珍しいと思うんですが、これは、結構、私立で置いているんですか。

○福田教育部主幹兼統括指導主事 私立の通信制は都内にもあるんですけども、一定期間スクーリングをするというのと、それから課題を郵送等でやりとりして行う、広域通信制高校というのも都内に幾つかございます。都心のほうにもキャンパスがありますし、郊外のほうにもある学校がございます。

○木村委員 ちょっと私の経験上でお話ししますと、通信制の私立というのはものすごく増えているんです。いわゆる有名な、よくテレビに出てくるいろいろな私立がありますよね。そういう学校も含めて、今ちょっと数は正確に覚えていませんが、増えているんです。しかも、さらに通信制は、スクーリング以外はふだん学校に行かないわけですよね。したがって、学校に行かないまま課題だけ出すというのは、なかなかそういう子どもたち、特に不登校だった子どもたちだとかは厳しいので、それをサポートする学校も今は結構あるんです。

○米森委員 そうなんですか。

○木村委員 通信制の子どもたちをサポートする学校に通って、通信制の課題を提出して、3年間で卒業すると。ですから、ある意味では塾みたいな感じですけども、今そういう不登校とかいろいろな理由で、中学時代に勉強が十分にできなかったという子どもたちに対するサポート体制が非常にできていて、都立も今それをやっているわけですけども、ただ、私立の場合にはものすごく金がかかるんです。

○森本委員 私立の通信制は高いんです。

- 米森委員 高いんですか。
- 木村委員 ええ。その点では、やっぱり今、何か文科省のほうでも補助金を出す出さないということで、そういった不登校の子どもたちが通っている学校に対して、私立も含めてやっていますよね。残念ながら、このサポート校にはそういうお金は出ていないそうなので、非常に高いんだそうです。ただ、そういう場があるということは、是非保護者の皆さんにも周知していただいて、せっかくのチャンスを生かせるように。結構、通信制から大学に行っているんですよね、そこでやり直しをして。中には通信制の高校から指定校推薦があると、そういうようなこともありますので、やっぱりこういう子どもたちの勉強のやり直しというか、そういう機会としてはよろしいのではないかというふうに感じていますけれども。
- 米森委員 はい、結構です。
- 宮田教育長職務代理者 今、木村委員、大変通信制のいいことを言っていましたけれども、一方では、三重県の学校で、テレビで放送されたので御存じだと思うんですが、行かなくても行ったことにしてというような学校もあるんですね。
- 木村委員 そうですね。
- 宮田教育長職務代理者 ですから、私は、進学指導の先生にしっかりそういうニュースを流して、教育委員会としても信頼できる通信制の学校であるかどうかということで、そういうインチキな学校に行ってしまうような進学指導というのを是非お願いしたいと思います。今、木村委員がいいところをおっしゃった、そういうようなところは是非推薦していただきたいんですが、子どもは知らないで適当に選んでしまう可能性もあると思うんです。ですから、それを是非よろしくお願いします。
- ほかに質疑はございませんか。
- 高橋委員 このスキップ教室の27名、高校に進学してからその後の状況というのはどのぐらいまで追跡調査をしていますか。
- 清水教育支援課長 27年度の高校進学者の追跡調査はどこまでやっているかという御質問なんですけれども、相談が継続している子もいらっしゃるんですけれども、スキップ教室のほうに、指導員の先生のところに報告に来るとというのがメインでして、そちらで今学校にどういふ感じで行っているかというのを報告に来ているところをつかんでいるところが多くなります。
- 高橋委員 自主的に高校生が報告に来てくれるのがほとんどということですか。
- 清水教育支援課長 はい。あと、それ以外にも、こちらから学校のほうに連絡した際に、学校に連絡が来ているというときがあったりするので、その状況とかをこちらのほうでキャッチしながら、進学先での状況も把握しているような状況です。
- 高橋委員 ありがとうございます。
- 宮田教育長職務代理者 私、スキップ教室の先生に卒業生が報告に来るとするのは、極めていい教育をしているあかしではないかと思うんです。子どもが本当にその先生を信頼しているからこそ報告に来るわけで、そういう子が多ければ多いほどいい教育をしているあかしだというふうに思いますので、是非その火を絶やさないように、その先生にエンカレッジしていただきたいと思います。

- 森本委員 この資料を見ますと、スキップ教室に通っていない不登校の生徒も進学していることになります。ほぼ皆さん進学しているということは、スキップ教室に通えていない不登校の生徒さんたちもどこかに入っていっちゃるということだと思うんですけども、実際にはそういう方たちはどういうところに行かれています傾向にあるのか教えていただけますか。
- 福田教育部主幹兼統括指導主事 こちらの横置き資料の中学校部分で、不登校でスキップに行っていない子どもの個別の状況は、今ちょっと資料が手元にないんですけども、各学校のほうで不登校の連絡会、それから進路指導の連絡会等々ございます。そういった子どもたちに合った、先ほど通信制の情報提供という話もございましたけれども、適正な選択ができる選択肢を子どもたちに与えるように学校を通じて指導をしているところです。
- 森本委員 先ほどもおっしゃったように、多分スキップにつながっているお子さんがその後どうしているかというのは、そういう形で多分つなげていかれて、ちゃんと報告があったりとかできると思うんですけども、恐らくそうでない不登校だったお子さんのその先というのは、なかなか把握しづらいのではないかと思います。実際のところ、その辺というのは何か情報みたいなものはあるのでしょうか。
- 福田教育部主幹兼統括指導主事 先ほど、スキップの指導員のところに訪ねてくるという話がありましたけれども、やはり学校のほうに元担任なり元学年の教員のほうなりに訪ねてくると情報は入ってくるかとは思いますが。そういったところで情報がなかなか入ってこない子に対して、その後のアプローチを含めてどうやっていくかというところは、教育委員会だけではなくて、ほかの関係所管等も含めて対応が必要などころだと思いますので、そういったところは一つ検討材料として考えたいと思います。
- 森本委員 是非よろしくをお願いします。
- 宮田教育長職務代理者 重要だと思うんですが、プライバシーの問題とか――。
- 森本委員 もちろんいろいろあると思います。
- 宮田教育長職務代理者 いろいろ難しいことがあるので、本来は一生懸命教育してもらって、先生、こんなふうになったよというふうに子どもさんたちが来てくれるのが、ザ・ベストだと思うんですね。
- 福田教育部主幹兼統括指導主事 はい。
- 宮田教育長職務代理者 ですから、大勢来たことに関しては、是非よくやったと褒めていただく以外は、なかなか。
- 森本委員 難しいですね。
- 宮田教育長職務代理者 強制的にどこに行ったんだとなると、何でそんなことを聞くんだというような話も出てくると思いますので、長い間、教育委員会としてあなたが成功するようにウォッチングしているんだという態度を十分相手方に感じていただけるようにしながら、ケアしていくということ以外ないだろうと思うんですけども。
- 木村委員 先ほど、宮田教育長職務代理者から子どもの本まつりについて、今後抜本的な見直しもというお話があったんですが、たまたま、私、どういうことをやっているのかなと思いついてこの日顔を出したんですね。ただ、お昼休みの時間だったので、子どもたちと会えなかったんですが、非常にお母さん方がたくさん来ていまして、読み聞かせを各学校でやっ

ていたり熱心なんです。だから、翻訳家の方の話を非常に楽しみにしていたというようなことで、何人かとお話ししたんですが、そういう点でいえば、お母さん方、そういう熱心な大人というか保護者というか、そういう人たちの一つの集まりの場所になっているという感じがしました。私はそれは非常に大事なことだと思うんですよね。今、宮田教育長職務代理者のほうから、学校とどう関わっていくのか、その辺が人数をぐっと増やしていくというか、一つの方策として考えられるのではないかという話がありましたが、私も、これも下野谷遺跡の問題と同じなんですけど、どういうふうに子どもたちの興味や関心を引きつけながら参加をさせていくかという点についていえば、やっぱり学校との連携というのは必要で、ただ、先生方の土日の仕事をさらに増やすという点では非常に申し訳ない気もしますが、やっぱり例えば、司書の方が連れてくるとか、あるいは図書委員会の子どもたちに、中学生なんか展示もありますよね、そういったことで、夏休みにやっている子どもたちのブックフェスティバルと同じような関わりを組み合わせながら、何かできないかなということを感じましたので、是非御検討いただきたいと思います。

○中川図書館長 はい、ありがとうございます。

○宮田教育長職務代理者 ほかに質疑はございませんか。——質疑を終結します。

○宮田教育長職務代理者 次に、日程第3 その他を議題といたします。教育委員会全般についての質疑をお受けいたします。いかがでしょうか。

○木村委員 最近、新聞やニュース等で図書館から学校誌がなくなったとか削除されたとか、そういう話題が随分報じられておりますが、西東京市の場合は、そういったことは私はないのではないかなと思うんですが、その辺についての図書館の取組の状況あるいは現状について、教えていただければと思います。

それから特に、学校で言うと、卒業アルバムの扱いというんですか、ああいったものがよくいろいろなマスコミに流れて、本人の顔が出てくるというようなこともよくあるので、これは家庭の責任になるかとは思いますが、その辺も含めて、こういった問題について、西東京市教育委員会としてはどういうふうに今後考えていったらいいのかというあたりの現状と、今後のお考えをお聞かせいただければありがたいと思います。

○中川図書館長 新聞報道等で問題になっております学校誌、学校記念誌などの切取りにつきまして、報告いたします。

報道各紙は今年13日あたりから紙面で取り上げられておりますけれども、一番新しい20日の朝日新聞では、27都道府県で65の図書館、356冊で、ページ数にしますと2,484ページの切取り等があったという報道もございました。その関係で、都立図書館が都内区立と市町村立図書館の被害状況を調査しましたところ、19日の時点で、西東京市を含みます21自治体から回答がありました。実際に被害があったのは渋谷区と板橋区と葛飾区のそれぞれ1巻ずつ、トータル7冊の被害がありました。西東京市内の図書館では被害はございません。ただ、それまで各図書館の開架室あるいは中央図書館の書庫に収められておりましたその学校誌あるいは学校記念誌ですが、その扱いを中央図書館の地域・行政資料室のほうに集めまして、そこで閲覧希望者には閲覧をお願いするという形に変更しました。総タイトル数は約90タイト

ルぐらいございますが、所蔵館も小・中学校近くの図書館にはそれぞれ配備してございましたけれども、一旦中央図書館に集めました。写真の切取り等が多いということでございますので、その原因についてはわかりませんが、こちらで一旦管理しまして、閲覧は中央図書館で行うという方針に、一度そういう形にさせていただきました。

今後でございますが、やはりほかにも、以前にもそういう切取りとかの問題がありましたので、ちょっと状況が落ち着くのを待ちまして、また、もとの図書館に戻したいとは考えております。

以上です。

○内田教育指導課長 卒業アルバムの扱いについて、現状についてお答えいたします。

卒業アルバムにつきましても、顔写真と個人名が書いてあることから、個人情報の一つだというふうに捉えております。学校では情報モラルの育成ということで、個人情報の取扱いについては、子どもたちの発達段階に応じて適切に取扱ができるように指導しているところです。卒業アルバムにつきましては、以前は、かなり昔のことになりますけれども、卒業生の住所等を載せていることもございましたが、現状では卒業生の住所等は載せてはおりません。けれども、顔写真と、それから名前が一致する大きな個人情報であると捉えてはおりますので、きちっと適切に扱うように日頃からの指導を徹底しているというのが現状でございます。

○木村委員 はい、わかりました。よろしく申し上げます。

○宮田教育長職務代理人 ほかにいかがでしょうか。

十分注意して。例えば今、中央図書館に持ってくれば切取りが防げるとお考えで持ってきているんですか、どういう――。

○中川図書館長 23区のほうでは被害がありましたけれども、まだ多摩地区では被害がないということでございますので、ただ、それぞれの地域の図書館に収めていたものを、この騒ぎは報道もちょっと盛んでしたので、一度中央図書館に集めさせていただいたところでございます。それで被害が防げるかというのは、確かにちょっと微妙なところなんですけれども、一括で一旦管理させていただきまして、状況を見て、また戻したいと思っております。もともとは各地域図書館でそれぞれの地域の方が御覧になれるのが一番理にかなっておりますので、そういう形に戻したいと思っております。

○宮田教育長職務代理人 切取りができないような目的でそういうことをされるんだろうと思うんですが、かえってたくさん集まって切取りしやすいという別のメリットというのを与えてしまうようなことにならないかという心配もあるんですが。要するに、よく考えていただきたいと思うんです。

○中川図書館長 はい。

○宮田教育長職務代理人 だから、どういう方なのかとか聞けないんですか。

○中川図書館長 閲覧される方でしょうか。

○宮田教育長職務代理人 閲覧希望のときに、今おっしゃった地域の方が昔のことを思い出して、見たいという素朴な方かどうかは、どこにお住まいですかとか、どこの中学校を卒業されたとか幾つか質問をすることによって、かなり防げるような気もするんですが、単純にみ

んなのを集めて借りるときに適当に貸していたら、これこそ集まっているからやりやすいということも、私としてはむしろそう考えるわけですがけれども。何のためにやるのか、結局切取られないためにそうやっているんでしょうから、その先までしっかりお考えいただかないと、何の役にも立たないということが起こらないようにしていただきたいんです。質問というのは、できるのかどうか私は知らないんですけども、どうすればいいか至急お考えいただきたいと思います。

- 中川図書館長 中央図書館の地域・行政資料室に集めまして、そこで閲覧する場所もございますので、請求がありましたらそこで閲覧をしていただいて、貸出しなら貸出しという形にしたいと思います。
- 宮田教育長職務代理者 だから、それで切取りは防げるとお考えですか。
- 中川図書館長 そこまでしかちょっと手がないかと思っておりますが、どなたが御覧になるかというところまでは、私どもはそこまで聞き取りはいたしませんので、その部屋の中で閲覧していただくということが前提になると思います。
- 宮田教育長職務代理者 貸出しとも、おっしゃったように聞いたから。
- 中川図書館長 はい。閲覧した後、貸出せるものは貸出しをいたしますので。
- 宮田教育長職務代理者 だから、今限定して、その卒業生アルバムは貸出すわけですか。
- 中川図書館長 はい。貸出せるものは貸出しを対象にしておりますので、貸出しまで防ぐということにはしてごさいません。何も知らないところで切取られてしまうという状況のようですので、一旦チェックをしたものを集めさせていただきますので、閲覧は館内の閲覧室で、その部屋の中で閲覧していただくことになります。
- 宮田教育長職務代理者 貸出して、返したときにはチェックされるんですか。
- 中川図書館長 はい。返却本は全てチェックしてごさいますので、特にそういうものでごさいましたらば、チェックをして、もし切取りという事実がありましたらば、利用者を調べることになります。
- 宮田教育長職務代理者 要は、十分注意してやっていただきたいと思います。

私は、先週土曜日、小学校の運動会に行っただけです。大変暑くて、晴れていて、子どもさんは元気よくやっていたんですが、碧山小学校ですが、校長先生が機転をきかせて、たしか10時半ぐらいに一旦休憩にして校舎へ戻したんですね。プログラムにはそういうことは出ておりません。戻して、体を冷やして、また出ていらっしやいと、これは、私は大変いいことだと思いますので、抽象的に、十分いわゆる熱中症に気をつけてくださいとかそういうことは書くんでしょうけれども、ミストもいろいろ降っているのを見ておりました。霧状の水をやっているのを見ておりましたけれども、例えば、1時間半ぐらいたったとき一旦休憩にして、子どもの体を冷やしてからまた再開する等のことを具体的に書いてあると、その他もし気がついたことならもっとやっってくださいというのを書くのはいいんですが、単純に、自主的に、もう一回言いますけれども、熱中症に気をつけてくださいではなくて、そういうことを注意書きして、こうやっていたと、事故なく終わったというようなことを是非お伝えしてほしいんです。これから、今週土曜日、かなりの学校がやると思いますが、今日は火曜日ですので、明日あたりに送っていただければ十分時間的に間に合うと思いますので、お願

いします。

○内田教育指導課長 今いただいた情報も含めまして、各学校に具体的な注意喚起を図ってまいります。

○宮田教育長職務代理者 ほかに質疑はございませんか。——質疑を終結します。

以上をもちまして平成29年西東京市教育委員会第4回定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

午 後 2 時 41 分 閉 会

西東京市教育委員会会議規則第29条の規定によりここに署名する。

西東京市教育委員会教育長

署 名 委 員